

バンテック、2012年3月期 第1四半期決算を発表

株式会社バンテック(本社:川崎市、社長:小山 彰)は28日、2012年3月期 第1四半期連結決算を発表した。当第1四半期の実績の概況及び2012年3月期の見通しは以下のとおりです。

(1) 2012年3月期 第1四半期連結決算の概況

東日本大震災の影響により自動車生産は期初に大きく減少、国内での貨物自動車運送を初めとした荷動きについても一時的に大きく停滞した。しかしながら寸断されたサプライチェーンの正常化とともに、荷動きについても急速な回復傾向を示した。また海外については、自動車関連物流を中心として引き続き堅調に推移をした。

この結果売上高は前期比で5.2%の増収を確保したものの、サプライチェーン補完のための緊急輸送の取り込み、新物流センターの立ち上げ等により営業利益は同1.5%減益、売上高営業利益率は3.6%と前期に比べ0.2ポイントの悪化。また経常利益は同3.1%減益となったが、当期純利益は15.1%の増益となった。

事業の種類別セグメントについては、「国内物流事業」は、自動車関連物流については運輸及び港湾運送を中心に自動車生産の復調とともに立ち直りの様相を呈した。また一般消費財物流輸送についても関西地区最大の大阪物流センターの新規開設の効果などにより、売上高は213億4千6百万円(同3.4%増)となったが、営業利益は5億1千1百万円(27.6%減)となった。

「国際物流事業」は、航空・海上ともにベースとなる取扱い貨物量は減少したものの、震災による航空貨物を利用した急送品の出荷等もあり、売上高は60億5千8百万円(4.5%増)、営業利益は3億7千9百万円(71.3%増)となった。

「海外物流事業」は、中国での物価上昇に伴うコスト増加要因があったものの欧州・米州での堅調な自動車生産に支えられた自動車部品物流の拡大により、売上高は54億7千9百万円(13.4%増)、営業利益は、2億9千1百万円(6.9%増)となった。

(2) 連結業績予想

東日本大震災による被害は引き続き大きな影響を与えておりますが、自動車生産については企業のサプライチェーン寸断から急速な回復傾向を示している一方で、電力制限等により企業を中心とした事業活動は引き続き不透明な状況が続くものと思われる。

依然として先行きの状況を見通しにくい状況が続く想定されるが、第1四半期に日立物流グループの仲間入りを果たしたことによりシステム物流及びグローバル事業において早期にシナジー効果を実現し、企業価値の向上を目指す。

なお平成23年5月26日発表の第2四半期連結累計期間及び通期業績予想に変更はない。

〈表〉2012年3月期 第1四半期決算と2011年3月期 第1四半期決算との比較及び連結業績予想

(単位:百万円 カッコ内は% 営業利益、経常利益、当期純利益のカッコ内は対売上高比率)

連結決算	実績			業績予想	
	2012年3月期1Q (a)	2011年3月期1Q (b)	増減 (a)-(b)	第2四半期累計	通期
売上高	32,884	31,268	+1,616 (5.2)	66,000	140,000
営業利益	1,183 (3.6)	1,200 (3.8)	△17 (△1.5)	2,100	6,500
経常利益	1,206 (3.7)	1,245 (4.0)	△38 (△3.1)	2,100	6,400
当期純利益	649 (2.0)	564 (1.8)	+85 (15.1)	1,200	3,700

以上